



# 多度志の子

《学校教育目標》

『自ら学び たくましく生きぬく 子ども』

○自ら学び 最後までやりとげる子ども (知)

○よさを認め合い、助け合う子ども (徳)

○進んで体をきたえ、健康や安全に気をつける子ども (体)

【発行日】 令和8年(2026年)3月24日

重点目標 学校を自ら楽しくする多度志の子 ～主体性を大切にした教育活動を通して～

## どこまでも まっすぐ育て 多度志の子

校長 渋谷 憲一

年に一度、校舎の鐘が「多度志小学校校歌」を奏でます。  
「あぁ 多度志の子 輪になって 希望の鐘を鳴らそうよ」  
その歌詞の通り、子どもたちが肩を寄せ合い、未来を見つめる光景が重なります。

3月19日(木)多度志小学校の卒業式が行われました。  
式後に校歌の鐘が鳴り響く中、全校児童が玄関で記念撮影を行い、学び舎を旅立つ二人の門出をお祝いしました。



卒業式で、私は、卒業生の**川端鈴さん、松田奈央さん**へ、出会った日からずっと変わらない2人の**まっすぐな眼差し**について語りかけました。

全校朝会や授業、何気ない会話でも、そして厳かな卒業式の場でも、2人はいつも私をまっすぐ見て、頷きながら話を聞いてくれました。答えに迷うことがあっても、後から自分の考えを丁寧に伝えに来てくれる。そんな誠実に相手に向き合おうとする姿勢は、私たち職員や在校生だけでなく、これまで各種教育活動に協力していただいた多くの方々に、強い信頼感を抱かせました。

「この子なら信じられる」という応援団を、これからも、その目と心で増やして欲しい…それが、私から2人へ贈った最後のはなむけの言葉です。



相手に真摯に接しようとする姿は、卒業生だけに限ったことではありません。後に続く在校生たちの瞳にも、確かにその輝きは受け継がれています。

卒業式では、在校生も、力強く小学校を旅立っていこうとする卒業生の姿を真剣な眼差しで見送りました。

最後に、全校でつくり上げた呼びかけと合唱は、会場を包み込む響きあいとなりました。その姿は、校歌のフレーズにある「**多度志の子**」の姿そのものでした。

まっすぐに相手と向き合う力は、ご家庭、そして地域が一体となって育んできたものです。無条件で受け入れ、支えてくれる大人がいるからこそ、子どもたちは安心して心を開き、伸びやかに成長できます。多度志に住む方々が連綿と受け継いできた**あたたかな関わり**に、あらためて深く感謝申し上げます。

ご家庭、地域、関係機関の方々におかれましては、今年度も本校の教育活動を支えていただき、誠にありがとうございました。次年度も、多度志の子たちが、どこまでもまっすぐ育っていけるよう、ともに歩んでまいりましょう。



